

小学校 生活科

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の基礎

活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりなどに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力 表現力等の基礎

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

学びに向かう力 人間性等の涵養

身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

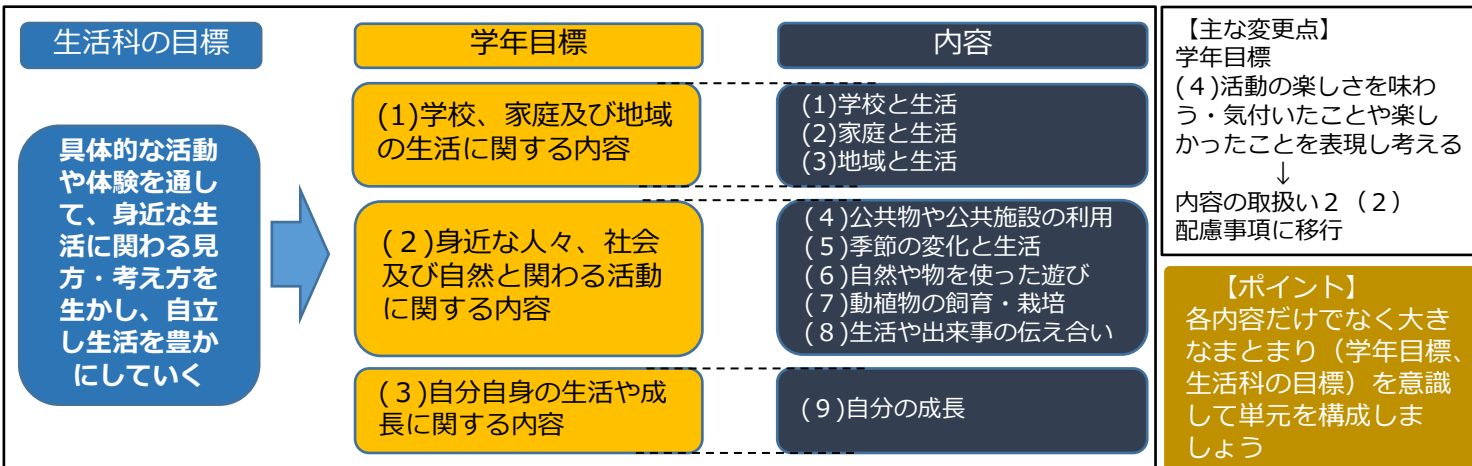
内容構成の改善

育成する資質・能力がわかるよう学年の目標及び内容における文章構成が統一されました（・・・を通して～について考え、〇〇に気付き、△△するようになる）

例) 学年の目標 (1)

【活動や体験】 学校、家庭及び地域の生活に関わることを**通して**、
 【思考力・表現力・判断力等】自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて**考える**ことができ、
 【知識・技能】それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに**気付き**、
 【学びに向かう力・人間性等】地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動を**したりするようになる**。

目標・内容のつながりがよりわかりやすくなりました



改善のポイント

変わらず重視すること

- 言葉と体験活動の重視
- 主体的な子どもの学習活動（気づき）

一層の充実をはかるもの

- 「活動あって学びなし」とならないように
子どもにつけたい力や目標・ねらいを明らかにし、それらを達成するための活動となるようにすること
- スタートカリキュラムの更なる充実
 - ・他教科等との関連を図ること
 - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに幼稚園や保育所等と連携するなど、幼児期における教育との円滑な接続を進めていくこと

2 小学校生活科における授業づくりのポイント

学習活動の展開例

目標：身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

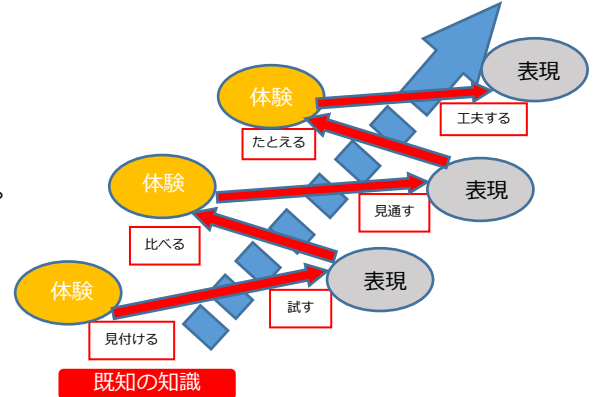
活動1 体験活動 テーマ『公園で秋を探そう』

【多様な学習活動のイメージ図】 **質の高い知識**

- ①秋を探す
- ②様々な形、大きさのどんぐりを見付ける
- ③どんぐりを比べる（大きさ・形）
- ④たくさんの種類があることに気付く

・【たとえる】

〇〇みたい、など容姿や特徴を捉え自分の言葉で表現する。



活動2 課題を知る

- ①どんぐりでコマを作って遊ぶ
- ②課題を知る「より長く回るコマのひみつをさがそう」

活動3 課題解決に向けての試行錯誤

・【見付ける】

どんぐりの大きさや形、軸の長さ、さす場所など自分が作ったコマや友達のコマを見て違いを見付ける。

・【試す】

見付けた違いをヒントによく回るコマを考え、作って回してみる。

・【比べる】

友だちが作ったコマと自分のコマを回したり、観察したりして比べる。

・【見通す】

よく回る〇〇さんのコマを参考にどんぐりの種類や形、コマの芯の位置などに着目し、改良の見通しを持つ。

・【工夫する】

どんぐりの形・軸の位置に着目するなど、より具体的なイメージを持って改良する。

活動4 振り返る

ワークシートに、うまくできたこと、できなかったこと、気付いたことなど記入し、学習を振り返る。

ポイント1

【知識・技能】と【思考力・判断力・表現力等】の関係を理解した授業づくりをしましょう

体験や学習によって獲得される知識・技能（既知の知識・技能）を、未知の状況でどう使えばよいか考え、多様な学習活動（見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなど）により、未知の状況で活かすことができるようになる、といった一連の学習過程により、汎用性のある質の高い知識・技能が獲得されます。

（多様な学習活動のイメージ図参照）

ポイント2

気付きの質を高める授業づくりを考えましょう

生活科で、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で・深い学び」を実現させるためのキーワードは『気付き』です。気付きの質を高めることが、深い学びになります。

気付き

活動や体験の過程において生まれるもので、生活科では、自分自身との関りでの気付き、身近な人との関わりでの気付き、社会及び自然との関わりでの気付きがあります。

気付きの質を高めるための工夫

環境の設定

単元や題材を通してどんなことに気付いてほしいのか想定して、教材の準備や活動の内容を考えましょう。

問いかけの工夫

単元の活動を通して獲得してほしい子どもの気付きを想定し、「なぜ?」「どうして?」など子ども達が悩んだり考えたりするような問いを工夫しましょう。

伝え合い

課題解決に向けて、グループで協力したり、対話を通して互いに気付きを交流したりするなどの伝え合う場を設定しましょう。

振り返り

ワークシートなどを活用して、学習で得た気付きや課題などを整理したり、気付いたことをみんなで共有するなど、振り返りましょう。